

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第72号

## ななえ古写真物語

VOL. 72

### 幻の電車

大沼電鉄

昭和7年ごろ

大沼公園駅前



この写真は、昭和7年ごろに撮影したといわれるものですが、現在の大沼公園駅の外観がほとんど変わらないため、場所の特定は非常に容易だと思います。しかし、この写真を改めて見ますと、現在とは決定的に異なる部分があることに、お気づきでしょうか？

まずは、右下をご覧ください。3軒ほどの建物のそばに、何艘かの船が浮かんでいるのが、見てとれるかと思えます。要は、ここまで湖が広がっていたことを示しています。これらの建物は、沼の家のだんご屋のあるあたりですので、ここは現在の公園駐車場に相当すると考えられます。

昭和33年に大沼が国定公園に昇格したことを受け、しだいに観光客が増加してきましたが、経済成長の最中、移動手段が鉄道から自家用車へと移行していったため、湖を埋め立てて公園駐車場が作られたといわれています。利便性はともかく、景観的には少し残念な気もしますが、これも時代の流れなのでしょう。

次に、中央左側をご覧ください。湾曲する鉄路と2両編成の車両がみられます。現在のJRが公園駅裏側を走っていると考えると、この場所に鉄路があるのに違和感を感じませんか？

この鉄路は、昭和4年1月に開業した私設鉄道「大沼電鉄」の軌道線で、大沼公園駅前から鹿部までの区間を大沼（公園）→大八湾→鬼柳→銚子口→留ノ澤→小川→本別→鹿部の8つの駅でつなぐものでした。電鉄の開通は、特に鹿部周辺の住民にとっては、函館方面への移動手段が船から陸路に変わったり、温泉をはじめとする観光産業の発展に期待したことでしょう。

しかし、前途洋々に運営を続けと思われた大沼電鉄に突如災難が降りかかります。それは、同年6月に起こった駒ヶ岳の大噴火です。この噴火の影響で、大沼電鉄は留ノ澤～鹿部間が壊滅的な被害を受けました。それにも関わらず、噴火直後でも運行が可能だった大沼～留ノ澤の区間の運行を続け、周辺住民の避難を助けたといえるのですから驚きです。

膨大な量の火山灰や溶岩の除去、焼失した変電所の修繕などのため、莫大な費用をかけ、1～2年にかかるだろうと思われた復旧作業を、半年もかからず進めたといえます。その後は、一度廃業しますが、路線縮小をして再び開業し、昭和27年まで運行していました。

今は幻になってしまった大沼電鉄。その車窓から風を感じることが出来ないのは残念です。

## 1月の予定

**27日** 歴史館友の会の皆さんが、当館野草園の冬囲いをして下さいました。

今年も来館者の目を楽しませてくれた野草園ですが、実は第1から第3までの三か所もあるので、冬囲いも大変です。表示看板を取り外し、洗った後にニスを塗りなおして、来年に備えます！また、カラタチやツツジなどはムシロで囲ったり、縄でしばったりしながら、雪の重みで枝が折れないようにしました。

少し、肌寒い一日でしたが、皆さん汗だく(?)で頑張ってくれました。毎年、本当にありがとうございます。職員なのに、手伝わずにごめんなさい！！



**30日** ジュニア探検クラブで、「町の外を見学しよう」と題して、函館市の文化施設の見学をしました。

まずは、函館市縄文文化交流センターの見学です。北海道で唯一の国宝「中空土偶」を見学した後は、体験コーナーで「縄文編み（アングイン編み）」に挑戦しました！単純作業の繰り返しのようですが、意外と難しかったようですね！

午後からは、北海道立函館美術館を訪れました。特別にバックヤードの見学もさせて頂き、美術資料がどのように保管されているかなどを見学した後は、現在開催中の「三岸好太郎展」を観覧しました！担当学芸員から、「自分の好きだと思える一枚を探しながら見るんだよ！」というアドバイスをもらいましたが、お気に入りの一枚は見つかったのでしょうか？今回の見学では、函館市さんにお世話になりました。ありがとうございます！



※12月31日～1月5日は休館日となります。

### バードテーブル設置

毎年、カラスとの戦いになるのですが、バードテーブルを設置しました。館内から観察できますので、是非ごらん下さい。



### 編集後記 ~tawagoto~

早い、早すぎな気がしませんか？何が早いかというと、それは時の流れ……。気が付けば、今年も残すところあとわずか、とうとう師走になってしまいました。

この時期感じるのは、私は別に誰かの師になったつもりもないのに、なぜか訳もなく走り回っているということ。まあ、その割に予定していた諸々が、あまり終わっていない事実については、どうかご内密でお願いいたします……。 (やまだひさし)

**Pichart** ~ピチャリ~

第72号

平成25年12月20日 発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp